

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 生理学研究室)

TEL: 054-264-5532

HP: http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,000名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の獨創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

静岡県立大学副学長 合田 敏尚



30年間の軌跡

静岡県立大学開設と同時に食品栄養科学部の歴史が始まり、30年が経ちました。子供の世代が、当時の私の年代になり、いつの間にかライフサイクルが1周したことに気づきます。それとともに、学部と大学が成熟し、地域社会における重要度が増してきたことを感じます。皆様方も、人生の主人公として、未来に希望を持ち続け、周囲に幸せをもたらす豊かな人生を送っていただきたいと願っています。

私は、4年間の食品栄養科学部長の任期を終え、4月から副学長に就任しました。改めて大学を見回してみると、本学の良さと強みがわかります。地(知)の拠点整備事業(COC事業)を担当する中で、多くの学生や教職員と議論を重ねる機会を得て感じたことは、学部を超えて、異分野で協力しながら、新たな発見や価値を見いだすことのできる大学の重要さです。

専門を究めつつ他の分野と協働しようとする意識は、これからの人口減少社会には特に重要です。誰とでも相乗作用の接点を探し、個ではなし得ないことをチームで達成するという意識変革が、どの職場でも必要だと思います。

振り返ってみると、食品栄養科学部は30年前に、食品と栄養の異分野融合を試みました。この数年間で、環境生命科学科や大学院薬食生命科学総合学府の開設で見られるように、環境や薬学との協働体制が進みました。グローバルCOEプログラムもこの異分野融合の挑戦から可能になったものです。本学のCOC事業は、この異分野融合の基盤を全学に拡大したもので、オープンイノベーションの時代に適しています。この点は、産学官連携推進本部長として私が考える本学の強みです。

本学は、皆様ひとり一人が未来を創るための学び直しを支援する知の拠点でもあります。静岡県立大学に、いつでも足をお運び下さい。

静岡県立大学創立30周年記念 合同同窓会開催のお知らせ

創立30周年を記念し、今年の創祭2日目に、全学部合同の同窓会が初めて開催されることになりました。

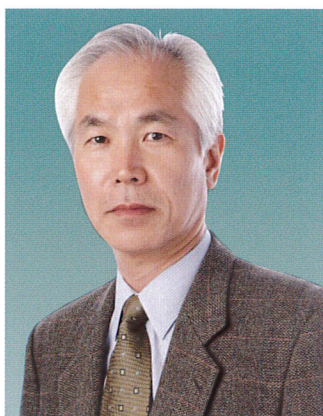
詳細は同封のご案内及び専用HP(<http://jaau-shizuoka.com/>)をご覧ください。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加下さい。なお、本年は合同同窓会開催のため、2年に一度開催しております創星会はいりませんのでご了承下さい。

【日時】平成29年10月29日(日) 10:00~13:00(受付9:00~)

【場所】センチュリーホテル静岡



食品栄養科学部長 坂田 昌弘



創星会の皆様には、お元気でご活躍のことと思います。私は、本年4月に食品栄養科学部長を拝命いたしました。元々は本学附置の環境科学研究所（水質・土壌環境研究室）の教員でした。これまでに、水銀、鉛、ヒ素等の有害重金属を対象にして、環境中での発生源や動態の解明を中心に研究を行ってきました。最近では、PM2.5に代表されるアジアから日本への越境汚染問題にも積極的に取り組んでいます。2014年4月には環境科学研究所を発展的に廃止し、それを母体とする「環境生命科学科」が食品栄養科学部に設置されたことにより、当学部の所属となりました。

皆様もご承知のとおり、食品栄養科学部は、1987年4月に本学の開学に併せて設置された日本で初めての学部です。当初は、「食品学科」と「栄養学科」の2学科でスタートし、生命科学を基盤として食品科学と栄養科学を密接に連携させることにより、「食と健康の科学」を幅広い分野から探求する学際的な教育と研究を行ってきました。両学科に「環境生命科学科」を加えた3学科体制をとることにより、食と環境と健康に関する総合的な知識と技術を身につけ、健康に関わる食とそれを支える環境の様々な課題について地球規模で取り組むことができる人材の育成を目指しています。そして、3学科連携による研究を通して、複雑で多様化する環境汚染の問題や食品の安全性、栄養と社会環境に起因する生活習慣病の蔓延など、食と健康をめぐる緊急課題の解決に貢献したいと考えています。

結びに、創星会の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。今後も変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

大学院薬食生命科学総合学府長／大学院食品栄養環境科学研究院長 小林 裕和



継続そして社会への貢献

大抵の思い付くアプリは、スマホにある。最近見つけたのは、カウントダウンソフトだ。私は後3年弱で定年だが、それが日にちで表示されると面白いと考えた。本日で、残り1000日となった*。ヒトの平均寿命は大体30000日だから、仮にそう設定すれば、推定生存日数だけでカウントダウンできる。大学院ができた1991年に、36歳で赴任させていただいた私が、定年残存日数僅かとなった。そのように、個人には終わりがある。しかし、社会、文化、科学、そして食品栄養科学部とその大学院は、引き継がれていくものである。

赴任当初は、研究の発展が関心事であった。しかし、研究期間が有限だと悟れば、研究を楽しみたいし、食品栄養科学部とその大学院、およびそれらを包括する静岡県立大学、そして地域の役に立ちたいとも考える。改めて、大学は教育機関だと自答

する。そこで、人材育成を介してどのような社会貢献が可能か。また、個々の学生にとっては、大学を活用して、如何に自分に付加価値を見いだすか。2年間副学長を経験させていただいて、地域社会に顔見知りも増えた。したがって、これらの人々が大学に何を求めているかを垣間見ることもできた。企業や社会に役立つ人材を欲している。そのような視点に立ち、昨年より、他学部の先生方の協力を得て、全学共通科目に「静岡の市民活動」を発足させた。全学共通科目「バイオ ― 静岡から世界へ」では、2年前から、食品や製薬を含む企業の開発部長や経営者を講師として招き、社会人の取り組みや心得を学生に伝えている。また、地域の企業は、留学生や英語が得意な人材を望んでいる。同じく全学共通科目に、昨年より、英語で日本を紹介して下さる先生方の協力も得て、「Japanology」を開講している。このような試みは大学院教育にも反映したい。食品栄養科学部とその大学院の同窓生を擁する「創星会」は、社会との最も大きなパイプである。引き続きご協力をお願いしたい。

※平成29年7月5日寄稿



カウントアップもできる。2017年9月1日で、食品栄養科学部開設11111日目となった。他の数字もそれぞれの開設以来の経過日数。

管理栄養士国家試験100%合格!

平成28年度食品栄養科学部栄養生命科学科卒業生25名全員が平成29年3月に実施された第31回管理栄養士国家試験に合格しました。全国の管理栄養士養成施設132校のうち、合格率100%の学校は13校でした。

学生の皆さんの努力が実を結び、嬉しく思います。本年に卒業された皆さんはそれぞれ新しい環境で日々奮闘していることと存じます。管理栄養士になった皆さんには、これまで以上に研鑽を積み、栄養の専門家として成長してくれることを期待しています。近年では卒後教育の重要性が広く認知されてきていますので、卒業後も大学と繋がりを持ち、ぜひ活用していただきたいと思います。

また、今年度より管理栄養士国家試験は3月上旬に実施され、3月末には合格発表が行われます。本年度も学生全員の努力が報われますよう支援していきます。

(臨床栄養学研究室 助教 吉田卓矢)



静岡県立大学創立30周年記念事業企画

静岡県立大学「フードサイエンスネットワーク」発足記念シンポジウム・交流会

平成28年11月5日(土)に、静岡県立大学「フードサイエンスネットワーク」発足記念シンポジウム・交流会を、看護学部棟13411教室および学生ホールにて開催いたしました。本シンポジウムは、静岡県立大学フードサイエンス事務局(食品栄養科学部卒業生・大学院修了生 有志の会)主催のもと、静岡県立大学、食品栄養科学部・大学院、食品栄養科学部・大学院後援会、創星会(同窓会)の後援を受け、約150名の食品栄養科学部・大学院の卒業生、修了生、在学生、現旧教員が参加いたしました。

シンポジウムでは、食品栄養科学部のこれまでの研究史、現在及び未来の構想について本学部の現旧教員に講演を頂き、さらに現在研究分野で活躍している卒業・修了生から、現在の研究及びこれからの食品栄養科学分野の未来についてご発表頂きました。交流会では、参加者の現状を紹介するポスターを囲み、親睦を深めました。本学部から発信された、そして未来の「食と栄養・健康の科学」の更なる発展を目指した意見交換が行われました。

本会終了後のアンケートでは、卒業生同士の再会・交流の良い機会になったというご意見に加え、現役学生にとっては将来をイメージする良いきっかけになったなど、良い評価を多数頂きました。静岡県立大学食品栄養科学部は、食品・栄養・環境を総合的に科学する唯一無二のオリジナリティーある学部です。本会を、学部・大学院、創星会との連携のもと継続・発展させ、本

学部に関わる現役学生、卒業生、教員が数年に一度集まり、世代を超えた新しい化学反応を起こすきっかけになればと願っています。今後とも、皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。ご意見等は本会E-mail (foodkendai30@gmail.com) までご連絡下さい。

静岡県立大学フードサイエンス事務局代表 岩崎有作
(食品学科 '03年卒、食品栄養科学専攻修士 '05年、
博士 '08年修了)

[自治医科大学医学部 講師]



【第5期卒業生】吉本 光希さん(食品学科卒、大学院博士前期・後期課程修了)

創星会の皆様、大変ご無沙汰しております。私は、2001年に小林裕和先生の研究室(当時、食糧細胞工学研究室)で学位を取得しましたが、早いものであれから16年が経ちました。学位取得後は、昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典先生のラボ(基礎生物学研究所・分子細胞生物学研究部門)にジョインし、植物におけるオートファジーの研究を始めました。当時、学会などに行っても“オートファジー”という現象はあまり認知されていませんでしたが、研究室セミナーで紹介した大隅ラボから出された論文に魅せられ、また、オートファジーと呼ばれる複雑で巧妙な細胞内自己分解過程に面白さと将来の発展性を感じ、是非、ポスドク研究員として雇ってほしいと大隅ラボの門を叩きました。大隅先生はアポなしにもかかわらず貴重な時間を割いて話をして下さい、これが私にとって大きなターニングポイントとなりました。

5年半の間、大隅ラボで細胞生物学を学んだ後、理化学研究所基礎科学特別研究員、同研究所植物科学研究センター研究員を経て、私は2011年12月に渡仏しました。オートファジー研究がきっかけでフランス国立農学研究所のフェローシップに応募し、運よく採用が決まったからです。かねてから海外に留学したいという思いがあったのですが、非英語圏に留学するとは思いませんでした。約4年間、ヴェルサイユ宮殿の敷地内にある研究所にて小さいながらも研究ユニットを主宰することができ、大変貴重な経験を積むことができました。昨年帰国して、現在、明治大学農学部生命科学科でラボを主宰し、引き続き一貫して植物の環境ストレス適応におけるオートファジーの役割について研究しています。

大学はこれまでの環境とは大きく異なり、教育という側面が大きな部分を占めるため、講義なども含め戸惑うことがかなり多くありますが、自分が学生だった頃の先生方を思い起こしては参考にさせて頂き、日々奮闘しています。幸いにも研究も十分に行える環境にあるため、今後は基礎研究の面白さ・重要性を示しながら後進の育成に努めつつ、オートファジー分野で第二のノーベル賞を目指して(!?)世界に誇れるような特徴ある研究を展開してゆきたいと考えています。



ラボ一期生
(明治大学生田キャンパス植村直己記念碑にて)

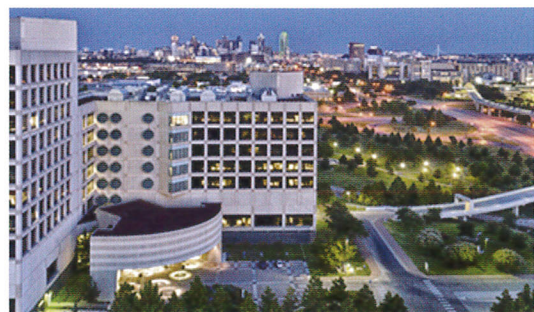


大隅先生と京都賞受賞記念ワークショップ発表者(京都賞授賞式にて)
筆者は左から2番目

【第8期卒業生】鈴木 綾子さん(栄養学科卒、大学院博士前期課程修了)

アメリカ、テキサス州ダラスと言えば、皆さんは何を想像されるでしょうか。現在では元レンジャーズのダルビッシュ投手の活躍、トヨタ北米本社のダラス郊外への移転など、日本でもダラスという都市名を耳にされる機会が多くなったと思いますが、以前はケネディー大統領暗殺の地としての暗いイメージが定着していたのではないのでしょうか。さらに、私の勤務するUT Southwestern Medical Centerを日本で耳にすることはまずないように思いますが、ダラスダウンタウンにはほど近く、その付属病院の一つParkland Hospitalはケネディーが運ばれた病院と言えど何となく想像していただきやすいのではないのでしょうか。

私は現在Psychiatry Departmentで睡眠に関する研究、実際には遺伝子操作したマウスの脳波測定、その脳サンプルを用いて生化学的、分子生物学的手法を用いて解析をしています。学生時代、睡眠に関する授業を耳にすることはあまりなかったように記憶しておりますので、食品栄養出身で睡眠?とお思いの方もいらっしゃるのではないかと思います。睡眠研究の分野に関しましてはまだ未知の部分が多いのですが、近年では睡眠はメタボリズムにも関与すること、睡眠に関するサプリメントの開発の報告などがなされるなど、ひょっとしたら想像される以上に食品栄養学と密接に関与する分野なのかもしれません。それほどやる気のある学生だったとは言えず、学部生、修士課程を県大で過ごし、博士号を取得した数年後にダラスにやってきました、この9月でまるまる11年になります。今までも、これからも亀のような歩みであると思いますが、一つ一つ自分にできることを丁寧に積み重ねていきたいと思っています。



テキサス大学のビル(手前左)とダウンタウン(奥のビル群)

【第17期卒業生】 加治 いずみさん (栄養学科卒、大学院博士前期・後期課程修了)

私は栄養学科を卒業し、食糧細胞研究室で分子生物学を、博士課程は環境生理学研究室で腸管の電気生理と組織化学の基礎研究法を学びました。この時の基盤のお蔭で「腸管腔の栄養素や細菌の代謝産物はどのようなメカニズムで生理機能に影響を及ぼすのか」という研究を現在まで続けています。高度に分化した上皮細胞一つ一つの機能を見ても、7mからなる消化管の各部位の役割分担を見ても、食べ物を消化・吸収・排出・発酵まで利用して余すところなく栄養を取り込む仕組みが無駄なく働いていることに感動し、



ラット十二指腸柔毛と
腸線の上皮細胞を剥がしてみた

どのように各機能が調節されているのかと疑問は尽きません。学位取得後、似た興味を持つ先生方と幸運にも出会うことができ、北海道大学医学部でのポスドクを経てUCLAのKaunitz研究室へ移り5年が過ぎました。漸くアメリカ消化器病学会からPilot Research Grantを頂いたことを励みに、現在就職活動中です。就活を始めて気付いたのは、自由の国アメリカにも人種・宗教差別は根強くあり、男性優位社会だということです。ガラスの天井や言葉の壁を感じますが、アメリカの大学教員はグラントが取れば研究に専念できます。裏返せばグラント獲得に生活がかかっているのも、成果を出し続けるプレッシャーがあるものの、研究を楽しむ人が世界中から集まりグループ内外を問わず議論する雰囲気は自分に合っている気がしています。基礎研究は時に孤独な個人活動ですが、新しいストーリーを打ち立てる為には手を動かして実験することと、様々なバックグラウンドを持つ人と話すことが必要だからです。研究室を訪れる学生達も、教科書の知識を基に教員やラボスタッフへ実に多くの質問をします。日本では先輩の背中を見て学び、空気を読んで黙って働くことが好まれますが、異なる民族が集まる国では自分の考えを言葉にして表現しなければなりません。実際に見て質問し、次の人には質問されて答える学び方は、合理的です。また、ここでは他人と違う意見を持つことが当然とされているので、論理立てて相手を説得し合意案を見出すコミュニケーション能力の高さに圧倒されました。とにかく皆よく喋る、上手に口を挟まねば生き残るのは難しい、というのが私のアメリカ文化の印象です。

ところで、L.A.はハリウッドの隣町。色々な音楽とダンスのスタジオがあるので、最近競技ダンスに挑戦しました。真剣に体性感覚と向き合い運動神経を使うことは脳作業にも良い影響を与えると信じていたら、先日アメリカ生理学会誌に、タンゴの練習がパーキンソン病患者の運動能力を改善させたという報告が載っていました。研究とダンスに明け暮れる生活が静岡県立大在学中も今も変わらず、楽しめることが有難いと思う今日この頃です。



競技会でタンゴを踊る筆者

研究室紹介

■研究室の近況 (栄養化学研究室 三浦 進司)

2012年4月に横越英彦先生の後任として着任してから6年目になりました。守田昭仁助教の協力のもと、これまでに学部卒業生14名、博士前期課程修了生7名を輩出することができました。ご指導ご鞭撻、ご協力いただきました諸先生、研究室に所属してくれた学生諸君にこの場を借りて感謝申し上げます。研究室を巣立った学生は、病院、薬局、給食施設、食関連産業などにおいて活躍中です。現体制になってからの研究室第1期生の佐藤友紀(博士後期課程3年、カリフォルニア大学アーバイン校に留学中)は、研究室の体制作りと研究の発展に多に貢献しています。また、博士後期課程2年の妹尾奈波が中心となって開始した骨格筋のリピドミクス解析は、研究室の主要な研究課題として展開しているところです。佐藤、妹尾の両学生は、日本学術振興会特別研究員にも採用されており、研究者としてさらなる活躍が期待されます。



平成28年度の卒業生、修了生を囲んで

現在、研究室には大学院生8名(博士後期2、博士前期6)、学部4年生3名が所属しています。骨格筋を構成するリン脂質分子種に関する研究や、骨格筋機能を維持向上させる物質の探索研究など、運動や食事と健康の関係に着目した研究を行っています。研究室の所属学生には、もっと知りたい、調べたいといった意欲を持って研究にとりくみ、自分のアイディアや意見を積極的に言い出せるようになってもらいたいと思っています。なお、詳しい研究内容や研究室の様子についてはホームページで公開していますので、「静岡県立大学 栄養化学」で検索してみてください。

研究室紹介

■研究室の近況（人類遺伝学研究室 小林 公子）

県立大学開学時より細胞生理学研究室を運営されてきた三好泰博教授の後を受けて、小林公子が赴任してから早いもので14年が経ちました。2008年に、研究室名を「人類遺伝学研究室」に変更。14年前に掲げ、学生の皆さんと一緒に取り組んできた「生活習慣病の発症に関わる遺伝要因と環境要因の相互作用を明らかにし、ゲノム情報をヒトの健康に役立てる」という目標は今もかわっていません。しかしながら、ヒトを対象とした研究だけでは、疾患のメカニズムを明らかにすることは困難です。さらに「ゲノム医療」や「Precision Medicine」が社会的にも注目される昨今において、私たちのような小さな研究室が単独でこのテーマに取り組むには限界があります。そのようなこともあり、現



生命誌研究館の季刊誌(2017年春)に紹介された大原助教の研究



在は、遺伝学的解析に長けたショウジョウバエをヒトのモデルとして用いる研究に力をいれています。ショウジョウバエを用いた研究の立ち上げに尽力してくれたのが萱嶋泰成（元）助教（現在は山梨学院短期大学准教授）です。その当時、本学の学生であった大原裕也が、カリフォルニア大学リバーサイド校研究員を経て2015年秋に助教として本学に戻り、研究室を支えています。ヒトとショウジョウバエの両者を見据えることで、オリジナリティのある研究を進めていきたいと考えています。

今年の秋には、細胞生理学・人類遺伝学研究室同門会を開催しようと計画中です。卒業生の皆様との再会を楽しみにしています。

昇進された教員の紹介

雨谷 敬史（教授：大気環境研究室）



平成29年4月付けで教授職を拝命致しました。昨年11月からは学部生の研究室配属もはじまり、研究室も賑やかになって参りました。大気環境という研究分野は広く、地球環境やシミュレーションなどいろいろなテーマを含んでいますが、本研究室では「健康長寿研究」の一翼を担うべく、身の回りの空気、身の回りの環境化学物質の曝露評価を中心に行っています。曝露評価研究は、対象となる化学物質の摂取量を定量的に明らかにする研究で、食品や食品調理時の煙なども研究対象となります。研究は一人一人が主体となって行うものですから、研究員のメンバー一人一人が自分で考え、研究を進められるように後押しをしていきたいと考えています。また、今の時代は研究室間で協力してより大きな課題に挑戦する必要もあります。その際は、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

牧野 正和（教授：物性化学研究室）



平成29年4月1日付けで物性化学研究員の教授を拝命いたしました牧野 正和（まきの まさかず）と申します。私は、名古屋大学大学院を修了後、静岡県立大学大学院生活健康科学研究科 環境物質科学専攻 機器分析教室の助手からはじまり、本学に20年以上在職させていただいております。その間、物理化学を基礎とし、農薬類および同族体の物性解明に取り組んでまいりました。今年より新たな立場をいただきましたが、これは学部・大学院運営の「参加者」から「責任の分担者」としての立場を与えていただいたものとして捉え、本学部・大学院のさらなる発展を微力でも助けることができたいと考えております。平成30年3月に、環境生命科学科の一期生が社会へ羽ばたいてゆきます。創星会会員としても活躍されるものと存じますが、現会員の皆様におかれましても、引き続きご支援を賜りますようお願い致します。

新任教員の紹介(平成28年7月～平成29年4月着任)

田中 瑞己(助教:生物分子工学研究室)



平成29年4月1日付で生物分子工学研究室内に着任しました田中瑞己と申します。私は東北大学大学院農学研究科において平成23年3月に博士(農学)を取得し、学位取得後も6年間にわたり、博士研究員・特任助教として出身研究室で研究を続けて参りました。これまでは、日本酒・醤油・味噌などの醸造に用いられる麹菌を研究対象として、麹菌による有用物質(タンパク質など)の高生産を目指すための基礎研究を主に行って参りました。今後も、日本の醸造食品の製造に欠かせない真核微生物である麹菌と酵母の高度利用を目指した研究を進めていく予定です。また、教育・研究指導を通じて、社会の課題を解決できる論理的思考力を持った人材を育成したいと考えております。創星会の皆様にはご指導・ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

橋詰 力(助教:生化学研究室)



平成29年度4月1日付で生化学研究室内に着任いたしました橋詰力と申します。私は東京大学大学院において主に大豆タンパク質摂取による遺伝子発現変動を介した脂質代謝改善効果の研究に従事していました。卒業後は、特任助教として東京医科歯科大学難治疾患研究所ではオートファジーの研究を、そして東京大学高齢社会総合研究機構では加齢性筋萎縮の研究及びリーディング大学院の運営に携わって参りました。

静岡県立大学においては、食品成分摂取による脂質の質の変化やそれに起因する代謝変動を分析化学・分子生物学の両方を用いて研究していければと考えております。また、そのような研究を通じて栄養・食に対する専門的な基盤を身につけた学生の教育に貢献していければと考えております。若輩者ではございますが、創星会の皆様には、御指導御鞭撻賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

真塩 麻彩実(助教:水質・土壌環境研究室)



平成28年7月1日付で水質・土壌環境研究室に着任しました真塩麻彩実(ましおあさみ)と申します。東京大学大学院にて博士を取得後、そのまま大気海洋研究所にて研究員をしていましたが、今回ご縁がありまして、静岡県立大学に異動してきました。私は海洋中の微量元素元素に関する研究をしており、サンプルを採取するために研究航海に出ることがよくあります。静岡県は駿河湾という日本一深い湾を有しており、今後の対象フィールドとして非常に興味深い場所だと感じております。研究対象としてもいい場所ですが、食べ物も水もおいしく気候も温暖なため、住むのにもとてもいい場所だと実感しています。このような素敵な場所で働ける機会を与えていただいたことに感謝し、これからも頑張っていきたいです。教員としても研究者としてもまだまだ未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

異動・退職された教員

杉本 収 助教	: H28年9月退職 → H28年10月～薬局勤務(薬剤師)
桑原 厚和 教授	: H29年3月退職 → H29年4月～京都府立医科大学 特任教授
円谷 由子 講師	: H29年3月退職 → H29年4月～相模女子大学栄養科学部管理栄養学科 准教授
佐久間理英 助教	: H29年3月退職 → H29年4月～椋山女学園大学生生活科学部管理栄養学科 講師
保田 倫子 助教	: H29年3月退職 → H29年4月～椋山女学園大学生生活科学部管理栄養学科 講師
島村 裕子 助教	: 食品衛生学研究室 助教 → H29年4月～微生物学研究室 助教
徳村 雅弘 特任助教	: 大気環境研究室 特任助教 → H29年4月～物性化学研究室 助教

住所等変更登録、創星会メーリングリストへの登録のお願い



【住所を教えてください】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、創星会HPのトップページに「連絡先の登録・変更」欄を設けておりますので、そちらから変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除（souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp）を行ってからご登録の変更をお願いします。

【メーリングリストにご登録下さい】

創星会メーリングリストを立ち上げております。学内情報、講演会情報、就職情報等、有用な情報を発信してまいりますので、是非ご登録下さい（携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可）。

創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。

会 計 中 間 報 告

(平成29年8月1日現在) 会計 大石 里夏

年 月 日	項 目	収 入	支 出	残 高
	繰越			9,982,309
H28. 8.10	アルバイト代 (H28.7×1名)		16,359	9,965,950
H28. 8.10	はばたき寄金へ寄付		20,000	9,945,950
H28. 9. 2	ラベルシール		3,628	9,497,252
H28. 9.12	会報印刷費 (東洋プロセス、振込手数料込)		178,524	9,767,426
H28. 9.12	郵送料 (会報誌送料)		244,160	9,523,266
H28. 9.12	アルバイト代 (H28.8×1名)		22,386	9,500,880
H28. 9.28	杉本先生退職記念花束代		5,000	9,495,880
H28.10. 1	利子 (H28.10.1)	31		9,495,911
H28.10.12	県大創立 30 周年記念事業 (ポスター・案内冊子、振込手数料込)		155,844	9,340,067
H28.10.12	アルバイト代 (H28.9×7名)		37,025	9,303,042
H28.11. 9	インク代		2,419	9,300,623
H28.11.10	県大創立 30 周年記念事業交流会費補助		62,511	9,238,112
H29. 2.24	創星会用卒業アルバム代		11,124	9,226,988
H29. 3. 3	卒業アルバム補助金 (5000 円 ×67名)		335,000	8,891,988
H29. 3.17	桑原先生・円谷先生・佐久間先生・保田先生退職記念品・花束代 (振込手数料込)		42,108	8,849,880
H29. 4. 1	利子 (H29.4.1)	13		8,849,893
H29. 4. 7	アルバイト代 (H29.2 ~ H29.3×1名)		7,749	8,842,144
H29. 5.17	H29 年度学部生入学時同窓会費	2,639,856		11,482,000
H29. 5.30	ホームページ月管理費 (H29.6 ~ 30.5)(振込手数料込)		18,816	11,463,184
H29. 6.12	USB メモリ		1,726	11,461,458
H29. 7.27	アルバイト代 (H29.5 ~ H29.6×1名)		25,300	11,436,158

